

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

多くの地点で27℃以上となっております。

検鏡の結果、魚類に対して有害なシャットネラ属が最大1細胞/mL確認されました。また、赤潮原因プランクトンであるアカシオ・サングイネアが最大3細胞/mL確認されました。

柱状採水（0～10mの海水をひとまとめに採水）した海水では、魚類に対して有害なシャットネラ属が大島中央で0.01細胞/mL、コクロディニウム・ポリクリコイデスが青瀬山で0.02細胞/mL、下痢性貝毒原因プランクトンであるディノフィシス属が大島中央、栄喜奥および青瀬山で0.01細胞/mL確認されました。

ディノフィシス属は、主に二枚貝（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので十分注意してください。

また、本日の調査にて一部着色が見られた海域がありましたが、検鏡の結果、原因は無害種であるスクリプシエラ・トロコイデア（最大94細胞/mL）であると思われます。

今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度 (m)	水温 (℃)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	シャットネラ 属	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	アカシオ・ サングイネア
A 藻津 (-/36.4m) 【09:11】	0	27.2	33.1	6.7	1	0	0
	★ 2	27.5	33.7	6.4	0	0	3
	5	27.5	33.7	6.0	0	0	1
	10	27.5	33.7	5.6	0	0	0
	15	27.3	33.8	4.8	-	-	-
	20	26.5	34.0	5.3	-	-	-
B 大島中央 (-/32.2m) 【09:20】	0	27.2	33.1	6.5	0	0	0
	★ 2	27.5	33.7	6.6	1	0	0
	5	27.5	33.7	6.3	0	0	0
	10	27.5	33.8	5.4	0	0	0
	15	27.1	33.8	5.5	-	-	-
	20	25.8	34.1	5.9	-	-	-
C 小筑紫中央 (-/48.4m) 【09:29】	0	27.6	33.7	6.6	0	0	2
	★ 3	27.5	33.7	6.7	0	0	2
	5	27.5	33.8	6.5	0	0	0
	10	27.5	33.8	5.4	0	0	0
	15	27.1	33.9	5.5	-	-	-
	20	26.7	34.0	6.0	-	-	-
D 栄喜奥 (-/13.7m) 【09:47】	0	27.9	33.7	6.6	0	0	0
	★ 3	27.7	33.7	6.7	0	0	0
	5	27.6	33.8	6.5	0	0	0
	10	27.5	33.8	6.2	0	0	2

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	シャットネラ 属	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	アカシオ・ サングイネア
E ヒロウラ (-/24.8m) 【10:12】	0	27.7	33.7	6.3	0	0	0
	4	27.7	33.7	6.3	0	0	4
	★ 5	27.7	33.8	6.2	0	0	0
	10	27.6	33.8	5.6	0	0	0
	15	27.5	33.8	5.3	-	-	-
	20	27.0	33.9	5.0	-	-	-
F 青瀬山 (-/15.6m) 【09:57】	0	27.4	32.2	6.5	0	0	2
	5	27.8	33.7	6.7	0	0	0
	★ 6	27.8	33.7	6.7	0	0	0
	10	27.6	33.8	6.4	0	0	0
	15	27.4	33.8	5.7	-	-	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL：https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp)においてもご覧いただけます。

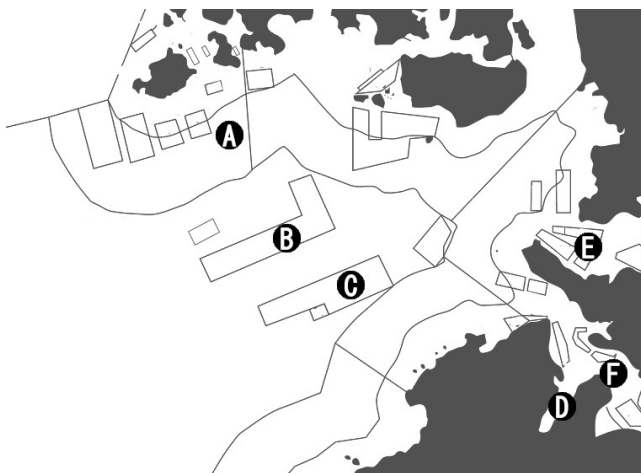
参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				宿毛湾
シャットネラ属	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—
コクロディニウム・ポリクリコイデス	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	5～6月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死 並びに 二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 藻津

D: 栄喜奥

B: 大島中央

E: ヒロウラ

C: 小筑紫中央

F: 青瀬山